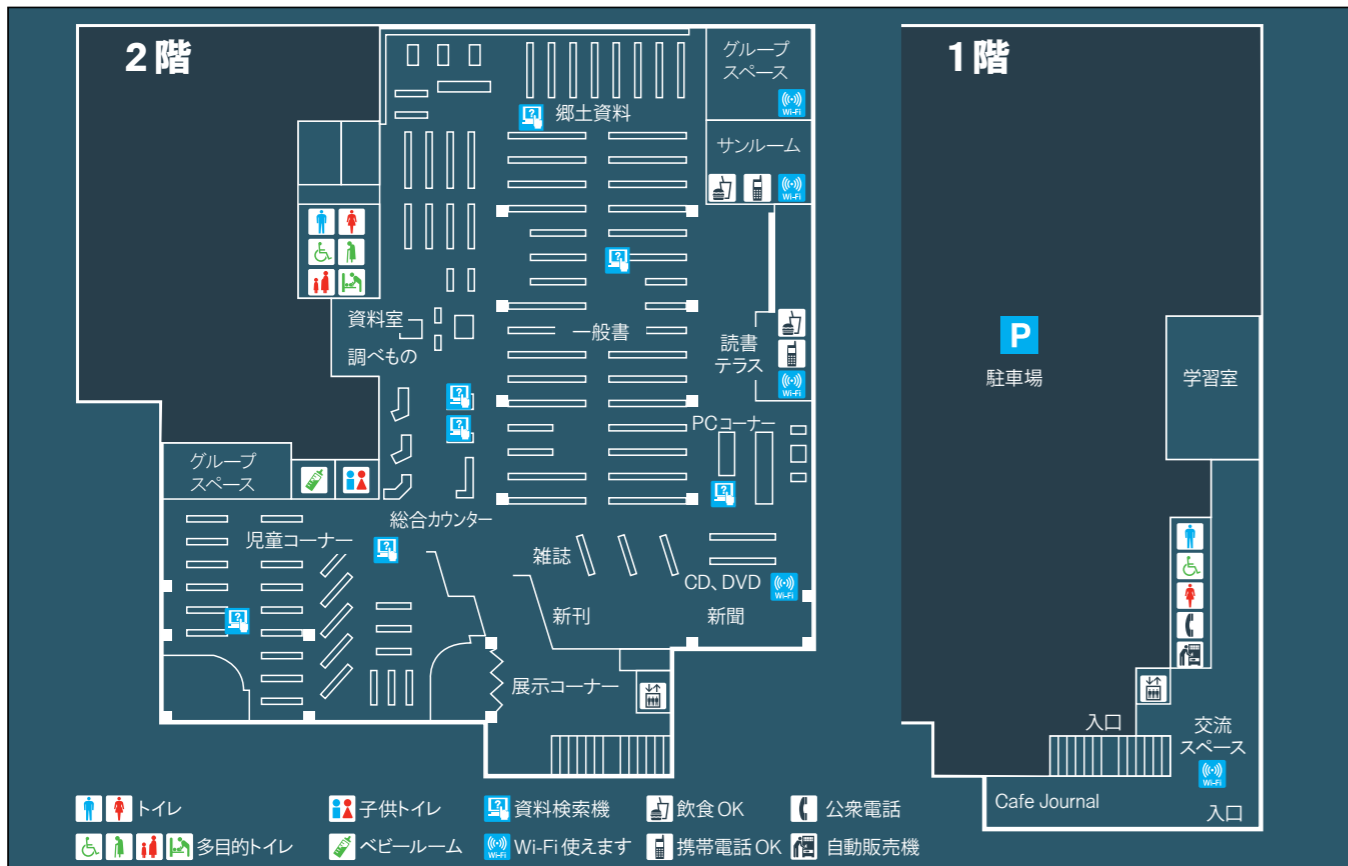


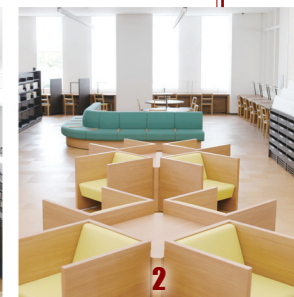


5_雑誌は222種類と豊富
6_タッチパネル式の検索端末は市内図書館の蔵書72万冊から読みたい本を探することができる 7_郷土資料や行政資料も充実。8_児童コーナーの「なかよしひろば」にはやさしい光が降り注ぐ



新しい一関図書館 7月24日にオープン

1_色鮮やかなステンドグラスは地元企業から寄贈されたもの 2_ゆったりとした空間で読書を楽しむ 3_一般図書11万5千冊が並ぶ本棚 4_「調べもの探し」にも対応してくれる専門知識が豊富な司書



Act1. 新しい図書館

田村町から大手町に移転した新しい市立「一関図書館」
延べ床面積は7900平方メートルで、県内自治体図書館で最大。蔵書数は22万5千冊を誇ります。1階にはカフェを配置するなど、人が集い、学び、憩う空間を実現。さらに100トンの貯水槽や災害用トイレなど、災害時の支援機能も備える新しい一関の顔です。

一関図書館 Ichinoseki Library

- ① 一関市大手町2-46
- ② 21-2147 / 21-2107
- ③ toshokan@city.ichinoseki.iwate.jp
- ④ 194台 / 225,000冊 (115,000冊)



図書館の利点を生かす

図書館と書店。どちらも本を扱う場所ですが、図書館には書店にはない利点があります。それは本を蓄えるという機能です。

10〜20年前、2万冊程度だった本の年間発行数は現在、約8万冊に増えていきます。スペースに限りのある書店は、優先的に売れ筋の本を並べ、売れなかつた本は処分します。処分される本の中には、隠れた良書も多いのです。

これに対して図書館は、ヒット作だけでなく、知る人ぞ知る良書なども末永く蓄えることができます。もちろん蔵書には限りがあるので、後世に残したい物を見極める目が大切になり、そこには本のタイトル、著者、出版社といった情報と利用者のニーズをリンクさせる手腕が求められます。

店などで取り扱われている本の総数が基準で、売れている本と面白い本は必ずしも一致しません。図書館でもベストセラーは扱いますが、書店にはない視点で蔵書しています。図書館には、隠れた良書を発見する楽しさもあるのです」と強調します。



資料サービスの担当
図書館副館長
伊藤清彦
Ito Kiyohiko

くつろぎの時間を提供

オーストラリア・メルボルン市は、ヨーロッパ諸国やアメリカと同じようにカフェ文化が発達しています。小岩さんは、メルボルン市内のレストラんで勤務した経験を生かして図書館1階に「Cafe Journal」を切り替えています。

「ournal」(カフェジャーナル)をオープンします。メニューは本場のエスプレッソコーヒーが中心。「良い豆を使った本格的なコーヒーを味わってほしいです。日記(ジャーナル)をつけるように気軽に足を運んでもらえたら嬉しいですね」と張り切っています。



Cafe Journal オーナー
Koiba Hiromi
小岩宏美(花泉)

